【授業科目】血液検査学Ⅱ　Clinical hematology Ⅱ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎 昭彦	２年次 前　期	必 修	1	15	講 義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／血液学で学んだ基礎知識を生かし、実際に臨床現場で行われている検査法について学ぶ。血液検査は、血球計数検査、血液形態検査、染色検査、溶血検査、凝固・線溶検査など非常に幅が広い。最近では病態の診断に欠かせない染色体・遺伝子検査、細胞表面マーカーの検査も汎用しており、これらの検査についても教授する。正確な検査結果を提供することが臨床検査技師の役割であるが、臨床検査と疾患との関連性を理解し、次に必要な検査を検討できるよう授業を展開する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法/各講義前の小テストは次回講義に返却及び、解説する。定期試験について総評コメントを掲示にて公開する。
実務経験に関する 授業内容	臨床検査技師の臨床経験を持つ教員が、臨床検査技師として必要な血液検査学の知識について、独自で作成したレジメを使用し、臨床経験段を交えながら教授する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①止血異常を理解できる。 ②凝固障害を理解できる。 ③実際の採血と採血検体の保存方法などについて理解できる。 ④実際の臨床検査について具体的な方法を理解できる。
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	具体的に血液検査の方法について学ぶが、実際に血液検査学実習で自分たちが行う手技も多い。臨地実習に行った際に困ることの無いよう、しっかりと学んで欲しい。 第 1～15 回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく（120分）。 第 1～15 回事後学習：授業内容を復習する。要点をまとめておく（60分）。授業内容に準じた国家試験問題を解き復習することでより理解が深まる（60分）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　骨髄増殖性腫瘍 第 2 回　多発性骨髄腫　血小板減少症、血小板機能異常 第 3 回　凝固障害 第 4 回　血管の異常、血栓性素因 第 5 回　血球数の算定、網赤血球数 第 6 回　形態検査　塗抹標本の染色法 第 7 回　末梢血液像の観察、骨髄像の観察 第 8 回　血沈、溶血検査 全て 高崎
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 学期末試験 70%、前回授業の復習小テスト 20%、グループワーク評価 10%　授業態度も加味する。

教科書	奈良信雄著『臨床検査学講座血液検査学』 医歯薬出版株式会社 （１年前期「血液学」で使用したものを使用）	参考書等	『病気がみえる vol.5血液、vol.6免疫・膠原病・感染症』 メディックメディア
学生への メッセージ	実際の臨床検査を学びます。体験談なども話をします。自分たちが臨床検査技師として働く具体的なイメージをつかめるように講義します。		